



みみ

耳よい

いいメール

国立病院機構 相模原病院 広報誌
平成24年10月17日号
発行：国立病院機構 相模原病院
発行責任者：秋山一男
住所：相模原市南区桜台18-1
電話：042-742-8311 (代表)
F A X：042-742-5314

第58号



写真上：拡幅工事により整備された相模原病院正門付近の歩道
写真左：整備前の正門付近の歩道

第58号 目次

- 「相模原病院アレルギー科」…………… 2
- 「過敏性肺炎とアレルギー疾患治療の免疫療法」… 3
- 「小児の食物アレルギーの診断と治療」 … 4
- 「成人の食物アレルギー
—かくれた発症の原因を見逃さない—」… 5

- 「肺機能検査室のご紹介」…………… 6
- 「耳より旅行記～山間の駅の今昔～」…………… 7
- 連載** 近隣協力医療施設の紹介コーナー
- 「油井クリニック」…………… 8
- 編集後記…………… 8



SAGAMIHARA
NATIONAL
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの
人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づ
き親切で心のこもった医
療を提供します。

「相模原病院アレルギー科」



アレルギー科医長
粒来 崇博

アレルギー疾患は特定の原因物質(アレルゲン)に対して反応を起こし、結果としてじんましんや喘息、鼻炎、結膜炎などを起こす病気の総称です。ここ30年で約4倍に増加し、現在の成人では40%近い方がなんらかのアレルギーを持っているといわれ、まさに国民病となっています。そうしたアレルギー疾患について、相模原病院ではアレルギーセンターとして耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科とも協力して診断、治療を行っています。



アレルギー科で主に診ているのは気管支喘息、食物アレルギー、薬剤アレルギーです。症状が鼻炎、結膜炎あるいは皮膚のみ(例えばじんましん)でしたら、アレルギー以外の病気も合わせて診療する必要がありますので、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科へまず相談されることをお勧めします。どちらか分からない場合はアレルギー科へご相談ください。また、化学物質や環境からくる多彩な症状の場合にはシックハウス外来への受診をお勧めします。

当科でもっとも多く診療している病気は気管支喘息です。気管支喘息は、主にアレルギーのために気道が炎症(むくんで腫れあがる)を起こし、そのために気道が敏感になり、なんらかの刺激で気道が狭くなって息苦しさ、ぜいぜい、咳などがでてくる病気です。そのため、気道の炎症をおさえる吸入ステロイド薬と、気道を拡張する薬を組み合わせながら治療します。当院では、診断の精度を高めるために、呼吸機能検査、気道過敏性検査、気道可逆性検査、アレルギー皮膚試

験などを組み合わせて、アレルギーの原因と気管支喘息の状況を精密に調査します。その結果に基づいて専門の医師が治療薬を調整するので、よりよい治療ができると考えられます。症状は大抵すみやかによくなりますが、慢性の病気なので定期通院が必要です。そのため、治療薬が決ま



ぜんそく自己管理マニュアル

った後は受診しやすいかかりつけの先生で続けて治療することをお勧めしています。また、必要な方にはアレルギー免疫療法というアレルギー体質を改善させる方法をお勧めしています。

次に、最近増加している病気として食物アレルギーがあります。5頁の福富先生を中心に、当科では問診で原因をしぼりこみ、採血、プリックテスト、食物負荷試験(入院が必要です)をおこない原因を調べています。採血は手軽ですが精度が低くそれだけでは確定できません。プリックテストは原因食物のエキスを皮膚に滴下、小さな傷をつけて反応をみるものです。一度受診し相談の上で予約して行います。食物負荷試験は実際に食べてみる試験ですが、発作の危険があるので必要と医師が判断する場合のみ入院して行います。治療は体質改善の方法はないため、原因食物を確定させ避けること(回避)発作が出た時の抗アレルギー治療(対処)が原則です。また、アナフィラキシーというアレルギーの全身の強い反応がおきる場合には、エピペンという自己注射キットを常時持っていただくこともあります。

薬剤アレルギーについては、原因を特定し回避することに対応します。原因薬剤の特定には薬物負荷試験をおこないません。実際に薬物を投与するので、入院が必要です。

アレルギー科では、水曜日(検査日)を除く、月曜から金曜まで8:30~11:00が受付時間となっています。今までの病気の経過、治療薬の反応が大事な情報となりますので、できるだけ現在おかけの医療施設の紹介状をご持参ください。なお病気の経過が長い方は、今までの経過を書いたメモをご持参いただくとより密度の濃い相談がしやすくなりますので助かります。また、今まで使った、もしくは現在使用中の薬のリストもご持参ください。

「過敏性肺炎とアレルギー疾患治療の免疫療法」



呼吸器内科医長
前田 裕二

相模原病院呼吸器内科は、アレルギー科と全く同じ科として診療をしております。ここでは、過敏性肺炎とアレルギー疾患治療の免疫療法について紹介します。

1. 過敏性肺炎について

1) どんな病気？

肺炎は通常、ばい菌(細菌やウイルス)が肺に付着しそこで増えて肺の炎症を起こします。過敏性肺炎は患者さんが過敏なために起こる肺炎です。

2) 何が原因？

多くの場合、カビが原因であることが多いのです。普通の家庭で見られる程度では病気になる心配は少ないのですが、浴室の床の木が腐っている場合は多量のカビが生えていることが多いので注意が必要です。他に、

きのこ栽培(孢子)、鳩(糞)および特殊な塗料(自動車整備工場など)で起こります。これらはいずれも過敏体質の方が起こす炎症なので同じ環境にいても病気にならない方もいます。



過敏性肺炎の胸部写真
左に比べ右が少し白くなっています。

3) どんな症状？

症状が週単位で起こる場合は熱、呼吸困難を伴うことが多いのですが月単位でゆっくりと起こる場合は咳のみのことが多いので病気と自覚されないことも多いのです。毎年同じ季節、あるいは同じ作業をすると症状が起こることが特徴です。

4) 治療は？

症状が強い場合はステロイドホルモンを使います。原因物質を吸わないように原因を見つけ回避することが最も重要な治療です。当科では必要があれば自宅へ伺い原因を探ります。鳩(鳥)が原因の場合、長期間放

置しておくとも肺が固くなり元に戻らなくなることが報告されています。

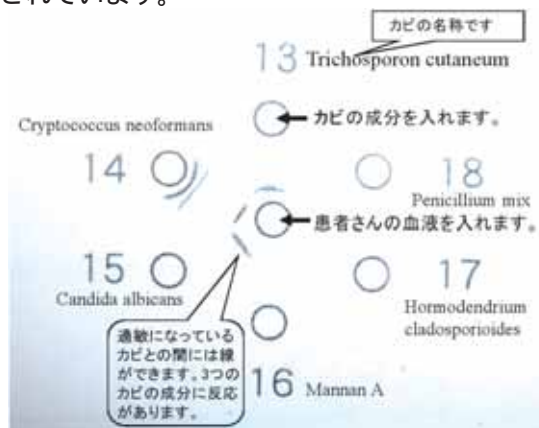


図 カビと患者さんの血液とのアレルギー反応
カビへ過敏な体質になっている患者さんは血液中に反応する物質(抗体)ができています。この検査はアレルギーの専門的な検査ですので通常の病院では行えません。

2. 免疫療法について

1) 免疫療法とは？

免疫療法とは少量ずつ原因物質を注射し過敏な状態を慣らしてしまおうという方法です。

2) どのようにするの？

原因となっているもの(アレルゲン)を少量から徐々に増やします。通常は週に1回皮下注射し半年から1年ほどかけて最大量まで増やします。その後、その量を月1回繰り返します。注射ではなく舌下療法という方法もあり効果は従来の注射法に比べ遜色はないのですがまだ一般的な方法ではありません。高価なアレルゲンエキスが多量に必要であり保険上も認められていないためです。

3) 薬の治療法と比べ何が違うの？

全ての症状に効果があることです。ダニなどの喘息症状、目および鼻炎症状の何れにも効果があります。また、薬とは異なるので妊娠しても継続が可能です。若い方、花粉症には特にお勧めの治療法です。症状がほぼなくなった状態が2、3年ほど続けば終了することも可能です。ダニ免疫療法は花粉などへ新たに過敏になることが予防できます。強いアレルギー症状(アナフィラキシー)を起こすことがありえますので治療経験の深い専門医でなければ行っていません。

4) もっと短期間にする方法はないの？

急速免疫療法という方法があります。これは月1回の維持療法は必要ですが半年ほどの増量期間を1週で終わらせるというもの。急速免疫療法は入院が必要ですが、休暇を利用して行くと良いでしょう。ご相談ください。

「小児の食物アレルギー」



小児科医師
小俣 貴嗣

①食物アレルギーとは？

食物アレルギーとは、「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」をいい、食中毒、毒性食物による反応、食物不耐症(仮性アレルゲン、酵素異常症など)は含まないとされています。

②食物アレルギーの診断は？

食物アレルギーの診断には問診が不可欠です。我々はお子さんがどのような物を食べてどれくらいの時間がたってどんな症状を出したのか、詳しく問診をとります。その結果をもとに各種検査(血液検査や皮膚テストなど)を行なっていますが、最終的な診断は食物負荷試験によってなされています。食物負荷試験とは食物を実際に摂取してもらい反応を確認することをいいます。

③食物アレルギーのタイプとは？

乳児期に発症する食物アレルギー児のほとんどが「食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎」型で発症することが多いです。特徴的な症状は生後3カ月以内に主に顔面から始まる湿疹です。適切なステロイド軟膏療法やスキンケアを行なっても改善しないケースやまたは湿疹がよくなったり悪くなったりを繰り返すケースなどは食物アレルギーの関与を考える必要があるかもしれません。幼児期以降、新規に食物アレルギーを発症する子供たちは乳児期発症に比べると非常に少ないのが特徴です。

当科のデータとして乳児アトピー性皮膚炎患者の70%に食物アレルギーの関与があることも報告しています。また3歳までの除去解除率は大豆78%、小麦63%、牛乳60%、卵白31%であることも報告しています。すなわちこの時期までに治らなかった子供たちが幼児期以降も食物アレルギーを有することとなります。しかし乳児期発症例であってもこの時期の症状は湿疹ではなく、即時型症状を呈する例がほとんどです。また幼児期

以降の新規発症例は即時型症状での発症が多いです。即時型症状とはじんま疹、紅斑等の皮膚症状、嘔吐、腹痛などの消化器症状、咳、ぜいめい等の呼吸器症状、そしてアナフィラキシーなど症状は様々です。原因抗原摂取後、1時間以内に起こることが多いですが、2時間以上経過してから起こる例もあり注意が必要です。特殊型として特定の食物を摂取後、運動した際に症状を起こす食物依存性運動誘発アナフィラキシーや原因抗原摂取後、口の中やのどのかゆみなどを起こす口腔アレルギー症候群があります。

④食物アレルギーの新しい治療法 —経口免疫療法—

患者さんの大多数は学童期までに治ることが期待されていますが、学童期になっても治らず、重篤な症状を引き起こすケースが少なからずいることが大きな課題でした。経口免疫療法はこうした子供たちに原因食物を摂取させて、治す方向へ誘導する治療法です。この治療の利点は、単に食べられるようにするだけでなく、アナフィラキシーに陥る可能性を低くできることです。小児科では2008年から取り組みを開始しました。具体的には、まず食物負荷試験を行い、経口免疫療法の適応があるかどうかを見極めます。適応がある、とは少量でも症状が誘発されるか否かです。アナフィラキシーを起こすような子供たちは入院の上、自宅で安全に摂取できる量まで持っていき、その後は外来通院に移行し、自宅で規定量を毎日摂取してもらって



写真:入院食物負荷試験の様子
(患者さまの了承を得て掲載)

ます。全例が目標量で維持はできませんが比較的良好な結果が得られています。しかしまだ標準的なプロトコルはなく、リスクも伴います。単に「食べれば治る」というものではないことを知っていただきたいと思います。

「成人の食物アレルギー
- かくれた発症の原因を見逃さない -」



アレルギー科医師
福富 友馬

大人の食物アレルギーといっても多くの方にとって、あまりなじみのない病気のように思われるかもしれませんが。一方、花粉症に関しては、成人の2、3人に一人が持つ病気で、皆さんにとってもなじみのあるものと思います。

ここでは、大人の食物アレルギーが、実は花粉や皆さんが毎日使用している化粧品などの成分など身近なものへのアレルギーと関係している、ということの説明させていただきたいと思います。

成人では果物野菜アレルギーが多い

成人の食物アレルギーの原因食物はどんなものが頻度が高いのか。私どもの施設で2006年の1年間に初診で受診した食物アナフィラキシー患者さんの原因食物を見ると、最も頻度の高いのが果物・野菜（リンゴ、サクランボ、大豆、メロンなど）で、全体の約30%を占めていました。次に重要であったのが小麦の運動誘発アナフィラキシーで全体の約20%を占めていました。一方、小児の原因アレルゲンとして重要な鶏卵や乳は成人では極めて稀

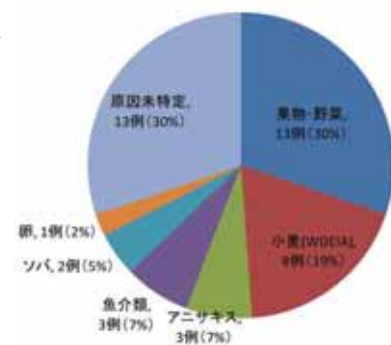


図 成人食物アナフィラキシーの原因 (相模原病院を受診した43例、2006年)

花粉症が引き起こす果物野菜アレルギー

成人に果物野菜アレルギーが多い原因は、成人に花粉症が多いことと関係しています。一般には、原因の食物を反復して食べているうちにそれにアレルギーが成立して (IgE抗体産生) 食物アレルギーに発展してゆくという理解をされていることが多いと思います。しかし、成人の果物野菜アレルギーは必ずしもそれを食べることによって発症しているわけではない、とい

うことが重要です。

成人の果物野菜アレルギーの原因は、花粉症の原因アレルゲンと極めて構造が類似したアレルゲンが果物野菜の中にも存在することにあります。言い換えると、花粉のアレルゲンで花粉症を発症した患者さんの一部が、同時に果物野菜の中のそれによく似たアレルゲンにも交差反応するようになり、食物アレルギーを発症する、ということになります。例をあげると、ハンノキという身近に生えている広葉樹の花粉のアレルゲンとよく似たものが、リンゴやモモ、大豆の中にもあるために、花粉症患者さんの一部がリンゴ、モモ、大豆などを食べた時に、口唇腫脹、咽頭のかゆみ、ひどい場合はアナフィラキシーを来すことがあります。このような病態を花粉食物アレルギー症候群といいます。

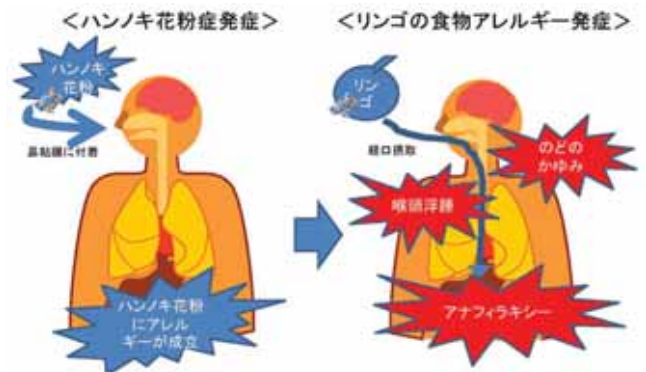


図 成人の果物野菜アレルギーの発生機序
花粉に対するアレルギーを成立した症例の一部が、花粉と類似したアレルゲンを持つ果物・野菜を経口摂取するとアレルギー症状を引き起こす

化粧品添加物が食物アレルギーを引き起こす?

このように食べ物以外のものが食物アレルギーの原因になるという例は他にもあります。最近私たちは、洗顔石鹸中の加水分解小麦という小麦から作った添加物に、皮膚や鼻眼球粘膜を通してアレルギーになった結果、小麦を食べて食物アレルギーを発症してしまうという病気を発見し報告してきました。残念なことに、その成分が (旧) 茶のしずく石鹸 (悠香) という大人気商品に含有されていたために、1000人を超す被害者を出すという大事故につながってしまいました。

さいごに

花粉や化粧品成分など身近な、全く予期せぬものが原因で成人食物アレルギーを発症していることはしばしばあります。このような発症の原因を適切に同定することが、病気の治療という意味でも重要です。

肺機能検査室のご紹介

臨床検査技師 福永 利恵子

当院の第二外来に行きますと、「吸って、吸って、吸ってー」とか「がんばって吐き切ってー」と大きな声が聞こえてくるとおもいます。「あの部屋では、いったい何をやっているんだろう？」と疑問をお持ちの方も多いとおもいます。この「大きな声が聞こえてくる部屋」が肺機能検査室です。アレルギー科外来の隣にあります。肺機能検査室では、臨床研究センター所属の臨床検査技師2名と臨床検査科・生理検査室所属の臨床検査技師1名の計3名で、検査を担当しています。患者様には、この大きな掛け声に合わせて、息を吸ったり、吐いたりしていただいて、検査をしていきます。ここでは、当検査室で行われている主な検査について説明します。

呼吸機能検査

肺活量や一秒量（息を目一杯吸ってから一気に吐き出し、最初の一秒間で吐き出す量）、フローボリューム曲線（吐き出している空気の色を連続して測ったグラフ）などをスパイロメーターという機械を使って測定します。

気道可逆性試験

気管支が狭くなっても、自然または治療により元の状態に回復する性質を「気道可逆性」といいます。気道可逆性試験は、喘息の治療薬である気管支拡張薬を吸入して、気管支がどの程度広がるかを調べます。気管支拡張薬吸入前と吸入後で呼吸機能検査を行い、一秒量の変化をみます。

気道過敏性試験

喘息患者さんの気管支は、いろいろな刺激物質に反応しやすく、健康な人なら反応しないような弱い刺激に対しても容易に収縮します。これを「気道過敏性」といいます。気道過敏性試験は、気管支収縮作用のあるアセチルコリンやヒスタ



ミンを非常に少ない量から吸入し、徐々に増量して、気管支が狭くなる時点（閾値）を調べます。薬剤吸入前の一秒量の値より20%低下した時点で終了となります。この検査は喘息の診断、重症度や治療効果の判定に重要な検査です。

呼気一酸化窒素濃度

息を決められた速度で吐いていただき、その吐いた息（呼気）の中の一酸化窒素という物質の濃度を測定します。呼気一酸化窒素は気管支の炎症の状態を反映し、濃度が高いほど、炎症が強いといえます。



モストグラフ

喘息のように気道が狭くなる疾患では、換気の際に空気が気道を通りにくくなりますが、この「通りにくさ」を示す指標を呼吸抵抗といいます。モストグラフは、20秒間安静呼吸した時の呼吸抵抗の経時変化を3Dカラーグラフで表示したものです。

今回ご紹介した検査は、喘息などの呼吸器疾患の診断を行う上で大切な検査です。また、正確な測定を行うためには、患者様自身の努力が重要です。「苦しくて、やりたくない！」と思われる方もいるとおもいますが、私たち検査技師と一緒にがんばりましょう。



写真 肺機能検査室のスタッフ（中央が筆者）

山間の「駅」の今昔

管理課長 香川 祐一朗

先輩に誘われ、山形県の山間にある温泉に行くことになりました。といっても大の鉄道ファンである私のお目当ては、温泉のみというわけにはいきません。わくわくしながら沿線調査を行ったところ、東北新幹線で福島駅まで行き、JR東日本の奥羽本線（山形線）を利用して「スイッチバック」の駅だったという「峠」駅を目指すことがわかりました。（スイッチバック：険しい斜面を登り降りするため、ある方向から概ね反対方向へと鋭角的に進行方向を転換するジグザグに敷かれた鉄道線路。関東近辺では箱根登山鉄道が有名。）

新幹線で鉄道旅の楽しみの一つである駅弁（今回は牛肉弁当）に舌鼓を打ちながら、福島へ。そこから乗り継いだ奥羽本線の車窓は、広大に広がる田園地帯から盆地、緑豊かな山々へと移り変わり、風景を十分に愉しんだところで「峠」駅に到着しました。「峠」駅は奥羽山脈という豪雪地域にあるため、雪除けのシェルター内にホームがあり、また駅員が配置されていない無人駅です。降車すると、私たち以外でこの駅に降り立った15人程はすべて温泉利用客と思われ、地元の利用客は見当たりません。他に何かないかと見回すと、この駅の名物というお餅の駅売りさんの声が聞こえたので、一つほおばりながら駅のシェルターから外へ出ました。商店街はともかく民家もなく、この素朴な甘さのあんこが入ったお餅が名物土産という茶屋が1軒あるのみ。

電車の本数は1日上下で各6本と、現在は人を寄せ付けないようなこの場所に、な



現在の峠駅。昔はプラットフォーム内で折り返しをしていた。

ぜ駅が作られたのか、とても興味深く思いました。

駅の歴史を調べてみると、奥羽本線は1899年（明治32年）に福島 - 米沢間が開通しましたが、途中奥羽山

脈にある難所である板谷峠を越えなければならなく、当時の技術では長トンネル建設は難しいため急勾配で線路を敷かなければなりません。そこで急勾配でも電車が進むことができるよう、ジグザクに折り返す「スイッチバック」方式で線路が敷かれたということです。また、現代の電車は性能が良く急な勾配も簡単に登りますが、当時の蒸気機関車は長い勾配を登ってくる途中で石炭や水の補給が必要でした。その補給地点として、「峠」駅が設けられたということです。「赤岩」「板谷」「峠」「大沢」と4つの連続スイッチバックの峠越えは鉄道ファンの間では有名で、駅がつけられた当時は鉄道職員が多数従事し、職員相手の店や官舎が建設され、一番賑わった時期で30世帯ほどの民家があり、駅付近は栄えていたそうです。しかし1970年代以降、自家用車の普及によって駅は衰退の一途を辿り、人々は



(上)スイッチバック時代のプラットフォームへ向かう機関車

り1990年8月末をもって「スイッチバック」方式も廃止となりました。

(下)同じ方面から現在の姿

今ではすっかり草に埋もれたスイッチバック跡やプラット



ホーム跡は、このままでは自然に還るのが行く末です。なんとか人々を運ぶためにと歩んできたこの鉄道の歴史、この「峠」駅の果たしてきた使命を知ったことで、この遺構を残せないものかと強く思いました。旅行帰りの電車ではいつも名残惜しい気分になるものですが、今回は感傷的な気持ちも相まって、しみりと鳥めしを味わいながら旅を終えました。

連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



相模原市南区豊町
「油井クリニック」

院長
神原 亜紀子 先生

油井クリニックは国立相模原病院アレルギー科に勤務しておりました父油井泰雄が昭和63年に開業致しました。開業当初より、内科、アレルギー科、小児科を診療科目とさせて頂いております。昨年、父泰雄が他界致しましたため、長女であり、現在院長をしております神原がクリニックの紹介をさせて頂きます。診療に携わっておりますのは、国立病院機構相模原病院アレルギー科の長谷川真紀先生、父泰雄の長男である油井直史医師（東京医科歯科大学腎臓内科）、次男の油井史郎医師（東京医科歯科大学消化器内科）、そして私、神原です。

当院では開業当初より、父の専門であった気管支喘息などのアレルギー疾患を積極的に診療しております。アレルギー疾患は近年日本をはじめ先進国各国で増加を続けており、現代の一大医療課題であります。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患に対する一般的治療に加え、特異的免疫療法（成人、小児）も当院外来で行っております。また消化器疾患（上部消化管内視鏡も行っております）高血圧・腎臓疾患に経験豊富な医師も診療しており、アレルギー疾患のみならず幅広く内科疾患全般に対応致します。また、予防接種、乳児健診、育児相談など、小児科診療も常時行っております。



小規模ながらも、赤ちゃんからお年寄りまで一家の診療を行える地域のクリニックを目指しております。地域に信頼される家庭医を志すにあたり、相模原病院との病診連携は、私たちにとり大変心強く、また多くのことを学ばせて頂く非常に良い機会となっております。

職員一同、それぞれの経験を活かし、全力を挙げて診療して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

【油井クリニック】

診療科：内科・小児科
住所：神奈川県相模原市南区豊町16-5
電話：042-745-1889
休診日：水曜、日曜、祝祭日

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	内科 小児科	内科 小児科	休診	内科 小児科	内科 小児科	内科 小児科
15:00~18:00	内科 小児科	内科 小児科	休診	内科 小児科	内科 小児科	休診

予防接種及び乳児健診：月曜、木曜
（PM 2：30～3：00、診療時間内でも可。）
上部消化管内視鏡：金曜（午前）、土曜（午前）

編・集・後・記

8月末に相模大野中央公園で開催された「相模原もんじゅ祭り」の屋台では、岩手県の大船渡市から出店していた「さんま照り焼きバーガー」が大好評だったそうです。（私は食べ損ねてしまいましたが...）

季節は早くも食欲の秋。私も休暇を利用して岩手県を訪れ、新鮮なお魚料理をいただきました。特に宮古港で水揚げされたばかりの秋刀魚はとても美味しく、秋の味覚を満喫することができました。

岩手で獲れた新鮮で美味しい秋刀魚を食べることが出来るのは、いまなお大きな爪痕を残す東日本大震災からの復興に向け、希望を持って注力されている多くの方々のおかげに他なりません。相模原病院も、地域の皆様により良い医療を提供できるよう、職員一丸となって励んでいきたいと思っております。

編集委員 柳瀬 則人

編集委員 藤原 保 柳瀬 則人
池田 彩乃 高橋 厚美